

◆第3回（第九期）中海自然再生協議会議事録◆

日時： 2023年12月23日（土）13：30～16：00

場所： 安来中央交流センター 3階 講義室

現地参加 18名

Zoom参加 14名

司 会 ： 國井協議会会長

議事録 ： 神谷会長代理

協議事項

(1) 第3期事業実施計画について

はじめに國井協議会会長から、第3期事業実施計画は第2期の4つの事業のうち2つの事業の継続とすることなど大まかな実施計画が示された。

《質疑・応答》

倉田：「はじめに」の最後の引用がわかりにくいので書き方を変えたらどうか？

國井：鍵かっこでくるように加筆する。

澤田：かつての自然（1960年代）といっても、生活の変化で無理があるのでは？

國井：実施計画は全体構想に則って進められる。全体構想については、来年、自然再生推進法の基本方針が改定されるので協議できる。今回の実施計画は、このままにしたい。

平松：3-1について文末がしっくりこない。

國井：「詳しく書かれている」に、記載を検討します。

倉田：近年中海では・・・を、何年ごろと書き換えた方がよいのでは？

國井：検討します。

5-1「海藻類の回収及びその利用事業」について、島根大学の倉田氏よりについて説明がされた。

《質疑・応答》

松本：このような計画を進めてほしいこと、地域で自然再生への意識を高めるために子どもたちへの教育が大切。（意見）

平井 オゴノリングについては、ブランディングも大変うまくいっており感服している。環境学習も効果が高いので進めて欲しい。（意見）

5-1「浚渫窪地の環境修復事業」について、島根大学の桑原氏から説明がされた。

《質疑・応答》

山本：ベントス調査が入ったのは良い。23Pにベントス調査の追加が欲しい。

P19最終行…「発生源」と言い換えてはどうか？

桑原：修正します。

第6章については、国井協議会会長から前期までと大きな変更が無いことと、九期の名簿について、今日から新しく委員になる団体の名称も入ることが説明された。

《質疑・応答》

廣野：表現の統一と、5P、P19、P24に細かい文字の違いがあるので修正いただきたい。

松本：環境学習の分野をオゴリングに結ぶ言葉でSDGsなど絡めて1、2行追加したい。

平井：第1期に掲げていた「子供たちが遊べる中海」は、地域住民に一番アピールできる点なので今回は無理だとしても、また盛り込むことはできないでしょうか？

国井：沿岸域は国交省が進めているので、連携しながら進めたい。

松本：「遊べる」という視点は、平井先生同様に私も大切と思す。

国井：第3期で復活できなかったが、第4期の事業計画に向けて検討したい。

環境省（尾崎）より、訂正箇所をチャットで送る旨の連絡が入る。

清山：二点の修正箇所、5ページのデータは目標値なので、計測データの入ったもので差替えて欲しい。各々訂正箇所については、メールで事務局に送る旨の了承を得た。

（2）その他

国井協議会会長から2つの団体、水環境再生山陰ネットワークと里山生物多様性プロジェクトから途中参加の希望があった旨の報告があり、各団体の推薦状（推薦者は両団体とも中海再生プロジェクト）が中海再生プロジェクトの上田和泉氏によって読み上げられた。

水環境再生山陰ネットワークの今井聖造氏、また里山生物多様性プロジェクトの野口浩二氏から現在の活動や今後の抱負が述べられた。

両団体の途中参加について異論なく、会則に則って協議会の出席委員の合意が得られたことから、両団体は次回から団体委員として正式参加となった。

報告事項

（1）自然再生協議会全国会議参加報告

11月7日・8日、阿蘇草原で、全国の協議会から38名（21団体）が参加し令和5年度の自然再生協議会全国会議が開催された。

現地で、自然再生協議会の中でファンドレージングや自治体、企業との協働がうまくいっている阿蘇草原の活動に参加したことなどが報告された。

最後に国井協議会会長が「頂いた意見をもとに修正をし、環境省の専門家会議に提出したい」と結んだ。